

おーじとしずくとたなっちの あの町この村ぶらり旅

Vol.19 那智勝浦町特集



那智勝浦町、ココだよ!



紀伊勝浦駅から車で観光する際の所要時間の目安よ。ちなみに、紀伊田辺I.C.で高速道路をおりたあとは、約2時間半でとところよ

聖なる山々と海産の恵みの地、那智勝浦。

強靱で豊かな自然と、無垢なる環境、豊富な温泉に恵まれた那智勝浦町。落差日本の那智の滝を核となす巨大な神域が広がる那智山。そこには熊野三山のひとつ「熊野那智大社」と西国観音霊場第番札所「那智山 青岸渡寺(せいがんじ)」が鎮座し、熊野古道 大門坂(だいまんさか)は往時の熊野古道の様子を今に色濃く伝えていきます。平成16年7月、熊野三山、高野山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されました。

一方、海岸部の黒潮打ち寄せるリアス式海岸の見事なまでの景観は「紀の松島」と称されています。日本有数の生鮮まぐろ水揚げ高を誇る漁業基地でもある那智勝浦町は、観光と漁業の町として、また生命の癒しの地として、魅力的な新しい変貌を遂げようとしています。

那智勝浦町へのアクセス

車の場合

- 「大阪 京都方面から」
松原JCT
阪和自動車道 和歌山方面
和歌山I.C.(約50分)
南紀田辺I.C.(約50分)
熊野街道を南下(国道42号)
那智勝浦町(約150分)

電車の場合

JR新大阪駅から、JRきのくに線特急(オーシャンアロー)スーパーくろしお号などに乗り、JR紀伊勝浦駅まで約225分。後続の紀勢本線に乗り換えて、町内各駅へ。
町内観光には、那智勝浦町観光協会窓口(JR紀伊勝浦駅)で借りられるレンタサイクル「チャリンコなっちゃん」もオススメです。



いにしへの参詣を現在に再現。



「南紀勝浦ひなめぐり」は、2月上旬から3月下旬にかけて、紀伊勝浦駅前や商店街などの町内各所にひな壇を設け、総数約4000体のひな人形を飾り、観光客をお出迎え。平成24年に町民が立ち上げたこのイベントは、台風12号被災からの早期復興の願いが込められています。

那智海水浴場で夏を楽しもう!



約800メートルの広大な白い砂浜の「那智海水浴場(ブルービーチ那智)」は、日本の快水浴場百選の特選に認定され、毎年多くの海水浴客で賑わいます。那智駅すぐの場所であり、アクセスしやすいのも嬉しい。毎年7月上旬に海開きします。

夜空を焦がす花火の競演。

毎年8月11日、那智海水浴場で行われる「那智勝浦町花火大会」は、町民による手作りの花火大会。町の夏の風物詩であるこの大会には、毎年多くの観光客が訪れ、約1時間、夜空を彩る壮大な2500発の花火に心を奪われます。



世界遺産を走るマラソン大会。



毎年4月下旬に行われる「奥熊野いだ天ウルトラマラソン」は、高低差約400メートルの自然豊かな山岳コース、清らかな清流や鮮やかな新緑の中を100.75、60キロメートルの3つのコースで走る、本格的なマラソン大会です。

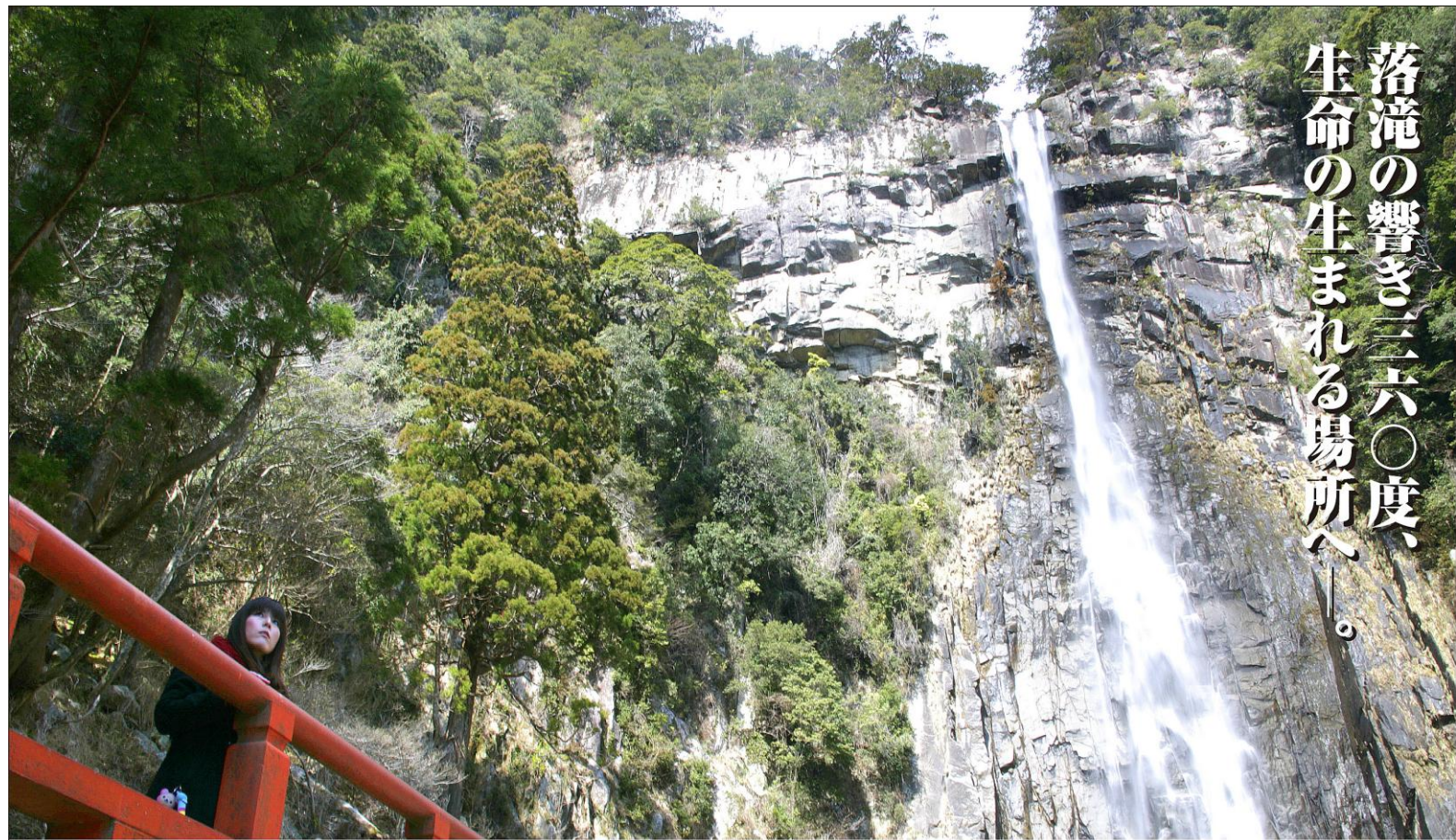
那智勝浦町の景勝地 紀の松島遊覧船めぐり



「紀の松島」は、日本三景の松島に匹敵すると親しまれている景勝地で、勝浦港周辺、周田17キロメートルに渡り点在する大自然が創造した海岸美のこと。ラクタガライオン島、洞窟の鶴島、その昔、屋島の戦いに敗れた中将平維盛が入水したと伝えられる島のひとつでもある山成島があります。そんな景観を遊覧船でめぐると、紀伊半島の雄大な自然を堪能することができます。さらに、勝浦観光棧橋から午後3時30分発の遊覧船に乗ると、イルカショーを楽しむことができます。(1日1便のみなので注意!)

詳しくは、那智勝浦町観光協会までお問い合わせ。

落滝の響き三六〇度、
生命の生まれる場所へ。



熊野那智大社の宮司、朝日さん

熊野那智大社

聖なる山に抱かれた大自然の神々。

「熊野那智大社のご神体は、国の名勝にも指定されている、落差日本の美しい滝です。水があるから緑が生まれ、地球上に生命が芽生えました。那智の滝の信仰として「水は生命の母」と申します」熊野那智大社の宮司である朝日芳英さんにお話を伺いました。那智山の熊野権現の御本社である熊野那智大社は、熊野本宮大社・熊野速玉神社とともに熊野三山として、平成16年「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録されました。

「熊野」といって名前の由来は、「奥まつた」「もつた」という意味を持ちます。部屋でも、奥といふのは上座とされる聖なる場所。ここ熊野も、上座であるから、神々が棲まう場所という概念なのです。かつて、蟻の熊野詣と呼ばれるほどたくさんの方がこの地へ詣つたのは、神さまの元へ向いてご挨拶し、日々我々が自然から頂いている恵みは神の恵みだとしつかり認識し、感謝していたのでしょう。道といふのは感謝を表す土俵。「道を踏まえて教えを尊ぶ、道理をわきまえて約束を成す」といいます。「ありがとう」という感謝の気持ちを、今の日本人は忘れてしまっているんじゃないでしょうか」

ご本殿は、右手から地主神をお祀りしている第殿。第二殿は熊野本宮大社。第三殿は熊野速玉神社の主祭神をお祀りし、際大きい第四殿が熊野那智



那智の火祭の様子



熊野那智大社 境内



三層の塔と那智の滝



ご本殿の前の鳥石



熊野那智大社の牛王符(ごおうふ)

大社の主祭神、万物の生成育成を司る熊野夫須美大神(フサメノミコト)をお祀りしています。第五殿は天照大神を祀る若宮。日本サッカー協会のシンボルマークの八咫鳥(ヤタガトリ)は、日本サッカーの生みの親といわれる中村覚之助氏の生まれ故郷が那智勝浦町で、その縁でシンボルマークになったといわれています。ご本殿の前には、八咫鳥が姿を変えたとされる鳥石(からすいし)が。また、毎年7月14日には「那智の火祭」が敵かに行われます。

「那智勝浦町は歴史のある素晴らしい町。深緑の山々、細碧の海など、数え切れない美しい景色。それを県民がしっかりと認識していないのは非常に残念なこと。私は和歌山県出身ではありません、だからこそ言えるんですよ、宮司さんは語ってくださいました。」



補陀洛山寺 ひだらくさんじ

平安から江戸時代にかけて、那智の浜から補陀洛山(観音浄土)へ放立つ宗教儀礼「補陀落渡海」で知られる。



青岸渡寺 せいがんとし

西国三十三所観音霊場巡礼の第一番札所。裸形上人が感得された、如意輪観世音菩薩が御本尊。



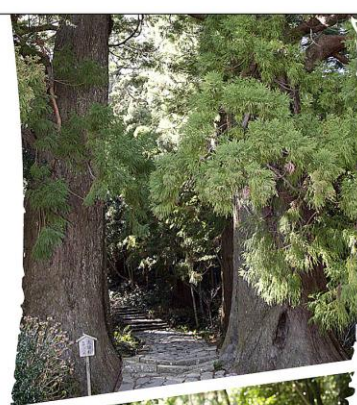
ご本殿の五社

悠久の時を紡ぐ、
いにしえの道。



熊野那智大社へと向かう熊野古道の最終地点、杉並木と石段が約650メートル続く「大門坂」があります。身分や男女の違い、病を問わず、すべてを受け入れてくださる熊野の神々。上皇や貴族だけでなく、室町時代以降になると武士や庶民の参詣が盛んになり、熊野信仰は栄華を極め、「蟻の熊野詣」といわれるほどでした。

まず目に入るのは「夫婦杉」。推定樹齢800年といわれるどっしりとした2本の巨木は、この地でどれほどの人々を見守ってきたのでしょうか。そして大門坂には中辺路最後の王子「多富氣(たふけ)王子」があります。「たふけ」は手向け(両手を向けてあわせる)の意味があるなど、諸説あるようです。ここまで来たら、那智大社まで30分程度。古人たちは何を想い、何を願ってこの道を迎ったのでしょうか。



先人から受け継いだ、色川の優しいお茶。

田舎暮らしに憧れを持つ「ターンの」の方々を積極的に受け入れていた熊野勝浦町、色川。両谷園(りやうこくえん)というお茶農園を経営されている外山哲也さんも、熊野勝浦町出身者ではありません。「私はさみ町で百姓をしていたんですが、この両谷園の創立者である榎本静夫さんと親交があり、農園を継いだんです」



「煎茶やほうじ茶だけでなく、紅茶も作っています。うちの紅茶を飲むときは、ティーパックじゃなく、ぜひ茶葉のものを飲んでみて欲しいですね」

さぞきたなうちも飲んでみました。素朴な甘味と優しい渋味。とても美味しかったです。

「色川は生活するには厳しい土地でも、榎本さんから始め、先人から受け継いだものを大切にしていきたいものです」

外山さんは、穏やかに話してくれました。



色川便り

色川地区は、どこかノスタルジックな山村の町並み。県道を行くと、立派な榎田が目に飛び込んできます。この榎田は、色川地区の「榎田を守る会」というグループが山村文化の象徴として守り続けているんです。さらに山頂に向かって車を走らせると「色川ようす屋」が見えます。ここでは、産直品や生活必需品が揃います。地元の人たちが「いらっしゃい」と優しく迎えてくれますよ。両谷園のお茶も、ここで販売しています。



世界にひとつだけの まぐろ缶詰作り体験

紀州勝浦産生まぐろを使った
オリジナル生まぐろ缶詰作り体験。
4缶中、1缶は思い出せ。
那智勝浦での
思い出を詰め
ます。



作業(1)
あらかじめ蒸した
まぐろのブロック。
皮・血合い・ウロコ
などを丁寧に取り
除く作業から。

作業(2)
キレイになったブ
ロックを、約1cm
角に切っていきます。
大きさはお好み
で良いらしい。

作業(3)
切ったまぐろを缶
に詰め、綿実油や
塩で味つけ。この
塩は、色川地区で
作られたものです。

作業(4)
巻締め機で缶にフ
タをします。この
あと、缶詰に高温
高圧をかけて、殺
菌消毒をします。

作業(5)
機械で殺菌消毒を
している90分の待
ち時間に、オリジ
ナルラベルを制作し
、缶に貼ると完成です！

まぐろ体験CAN
■実施時期: 通年 ■体験時間: 午前9時～午後1時
ほかにも、ひもの作り体験やまぐろ郷土料理作り体験
が。詳しく是那智勝浦町役場へお問い合わせを。

**思い出缶の中身は
シークレット！**



本まぐろ(クロマグロ) マバチマグロ...目が大きいから「マバチ」とか キハダマグロ...腹部と尾びれが黄色いのが特徴 ピンチョウマグロ...最も多く揚がる小型のまぐろ

まぐろ加工品

町内の土産店でお土産物として購入できます

- 目玉・心臓などの珍味も
- 人気のまぐろ角煮
- まぐろジャーキー

全国からまぐろ漁船が集まる、朝の勝浦漁港。まぐろの最上等種、本まぐろの200キロ級のものが、この日は2本も揚げられました。ほかにも何千本というまぐろが横たわる漁港内の光景は、まさに圧巻。

那智勝浦町のまぐろは、平成23年11月18日に「紀州勝浦産生まぐろ」として特許庁の認定を受けました。100%は生鮮漁船に、漁獲された直後の新鮮さで、品質を保っています。王子マシした食感と、適度な脂がのって美味しい紀州勝浦産の生まぐろは、県産の水産物に限定するなどの例目の認定なんだとか。

町内にはまぐろ料理を食べられるお店が軒を連ねています。ぜひ勝浦の生まぐろを、ご賞味あれ。

朝の広場内で、海産物加工品や農産物などの地元産品の販売や、生まぐろの直売が行われます。さらに、まぐろのやにぎり、かぶと焼きなどがその場で食べられるのも嬉しい。屋台を出店している地元の人たちとのふれあいも楽しい朝市です。

まぐろ祭り

毎年1月下旬 ■勝浦漁港魚市場

毎年多くの観光客が訪れる、那智勝浦町を代表する人気のグルメ祭り。まぐろの汁やかぶと焼きなど、まぐろ料理の試食(一部無料)のほか、まぐろの即売(二頭造りや解体ショー、じゃんけん販売などのイベント)が開かれ、大いに盛りあがります。

にぎわい広場朝市
毎週日曜日 午前8時～11時
勝浦漁港にぎわい広場

那智勝浦町 温泉&お宿

南紀勝浦温泉の泉質は含食塩硫酸水素泉、単純硫酸泉、含食塩硫酸泉、含硫酸、ナトリウム・カルシウム塩化物泉など。日帰り入浴のできる施設も多く、駅前の「滝乃湯」、漁港周辺に「鮎乃湯」「海乃湯」など、気軽に温泉を楽しむ足湯も3カ所。宿泊施設も多く、伊勢勝浦駅周辺を中心に、ホテルや旅館が密集しています。詳しくは南紀勝浦温泉旅館組合、もしくは那智勝浦町観光協会にお問い合わせを。

おーじケン、はてな？？？ 発見！

スーパーではてな？食材みつけたよ！

クセのない淡泊な身で、モキモキキュとした食感。味はササミに近いような、ソテーにするとイカのような...とにかく、意外と美味しい！いつも売ってはいないけれど、見つけたときは試してみよう。

マンボウ、食入られるんスか？

那智勝浦町のスーパーマーケットの鮮魚コーナーを物色中、マグロ、カツオ、アジ、マンボウ、マンボウ？マンボウ？

バターソテー 湯引き 白身 キモ